
平成 27 年度

修学旅行の実施状況並びに
「学びの集大成を図る修学旅行」の取組
についてのアンケート

< 関修委研究委員会報告 >

関東地区公立中学校修学旅行委員会 研究委員会
(事務局 : 公益財団法人 全国修学旅行研究協会)

平成27年度

修学旅行の実施状況並びに「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について 調査集計結果の分析と考察 ～感性をはぐくむ修学旅行～

I 調査研究のねらい

学習指導要領は、昭和22年に発表されて以来7回の全面改定が実施され、我が国の学校教育の基本的指針となってきた。その学習指導要領に「修学旅行」という言葉が登場したのは、昭和33年度版の第3章第3節「学校行事等」においてである。更に明確に修学旅行について言及したのは、昭和43年度版の第4章第2「学校行事」の中、中学校において「特別活動」が必修化されてからである。そこに、現行の学習指導要領の原型と言える、「修学旅行的行事においては、平素と異なる生活環境の中にあつて、見聞を広めるとともに、楽しく豊かな集団行動を行うことにより、集団生活のきまり、公衆道徳などについての望ましい体験をつむような活動をする」という表現が配慮事項として記載された。その後、改訂の度に若干の加除修正はあったものの、基本的な姿勢は変わっていない。

本委員会は昭和38年に発足し、学習指導要領の趣旨を具現化するため、関東5県（茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉）校長会と連携し、修学旅行の「安全性の確保」、「教育性の充実」、「経済性の適正化」を基本的な柱として、修学旅行の在り方、条件整備等について研究を進めてきた。また、平成27年度までに、関東5県で7, 223, 263人の修学旅行生を運ぶ、連合体輸送を行ってきた。そして、修学旅行の、更なる充実、発展を図るため、調査研究活動に、毎年、取り組んでいる。

研究テーマは、その時代の教育課題であったり、社会の教育的要請であったり、様々である。体験学習や事前・事後学習、危機管理と安全対策、感染症や食物アレルギー対策、航空機利用や新線ルートの活用など、これまで多くのテーマについて、各学校における取組や課題、将来的な展望等について、実態調査を行ってきた。

今年度は、今年開業した北陸新幹線の利用希望、修学旅行会社の選定について、アンケートを行った。また、一昨年度から引き続き実施している、『感性をはぐくむ修学旅行』をテーマにした、「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について、

- ① 現地において現物に触れて最も影響を受けたと思われることについて
- ② 現地での体験学習について
- ③ 修学旅行後の事後学習について

上記の3つを柱に調査研究を進めている。

何れにしても、「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。」という、現行学習指導要領は、日々の学校の学習活動を更に充実・発展させること、そして、非日常の旅という体験を通して、人間としての生き方についての自覚を深めることをねらいとしていることは周知の通りである。日本人の旅の原点の一つでもある修学旅行は、中学時代の思い出について尋ねる時、必ず上位に入ってくる。今後とも、学校教育における修学旅行の重要性と可能性について常に展望しながら調査研究を進めていきたい。

II 平成27年度修学旅行の実施状況並びに 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組についてのアンケート調査

＜調査について＞

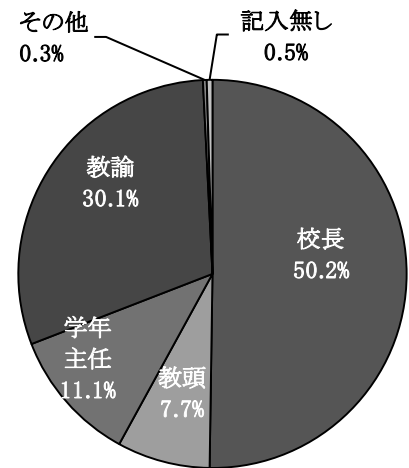
- ・ 調査対象 関東5県(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉)の公立中学校
- ・ 調査の時期 平成27年7月
- ・ 調査内容
 - (1)平成27年度実施(調査以降の予定を含む)の修学旅行の概況
時期・日数・旅行方面・宿泊地・旅行費用・不参加生徒数
 - (2)北陸新幹線の利用希望について
 - (3)修学旅行実施旅行会社の選定について
 - (4)学びの集大成を図る修学旅行の取組について

・回答状況

	校					
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
調査校数	221	158	168	417	381	1,345
回答数	201	158	110	416	381	1,266
回答率	91.0%	100.0%	65.5%	99.8%	100.0%	94.1%

・回答者

	校						
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
校長	22	40	59	283	232	636	50.2%
教頭	22	6	19	31	20	98	7.7%
学年主任	39	45	6	22	29	141	11.1%
教諭	115	66	25	77	98	381	30.1%
その他	2			1	1	4	0.3%
記入無し	1	1	1	2	1	6	0.5%



・学年平均生徒数

	人					
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均
生徒数	121	115	109	148	135	132
最多	309	327	306	399	408	-
最少	2	2	3	3	7	-

実施時期、日数等の状況

・実施時期は5～6月がもっとも多く、80.1%の学校が実施している。

・関東委・連合体の集約列車を利用せず4月実施の学校が54校あり、昨年に比べ19校増加している。栃木県、茨城県に多く見られる。

・9月実施校は年々増加の傾向がある。24年～27年にかけて年々5校ぐらいつつ増加している。

(24年) (25年) (26年) (27年)
25校 ⇒ 31校 ⇒ 36校 ⇒ 41校

・2月実施校は昨年に比べやや減少し、41校となっている。

・実施日数は3日間が圧倒的に多く、99.1%となっている。

・群馬県の8日間は夏季休業中の海外ホームステイ実施校である。

1 平成27年度修学旅行実施の状況

(1) 実施時期

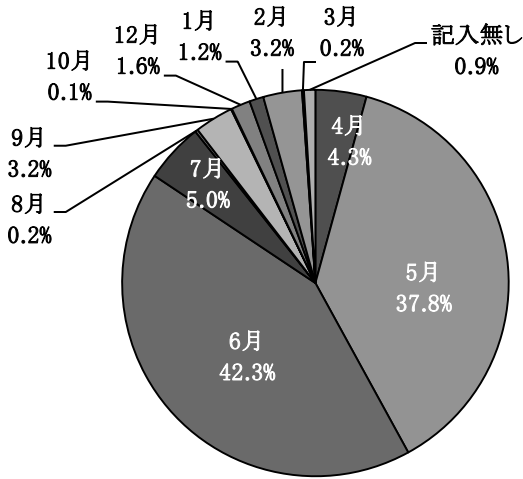
	校						
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
4月	20	34				54	4.3%
5月	87	20	68	130	173	478	37.8%
6月	74	92	38	183	149	536	42.3%
7月		3		9	51	63	5.0%
8月		1	2			3	0.2%
9月	17	5	1	17	1	41	3.2%
10月					1	1	0.1%
11月						0	0.0%
12月				20		20	1.6%
1月				13	2	15	1.2%
2月				40	1	41	3.2%
3月				2		2	0.2%
記入無し	3	3	1	2	3	12	0.9%

(2) 実施日数

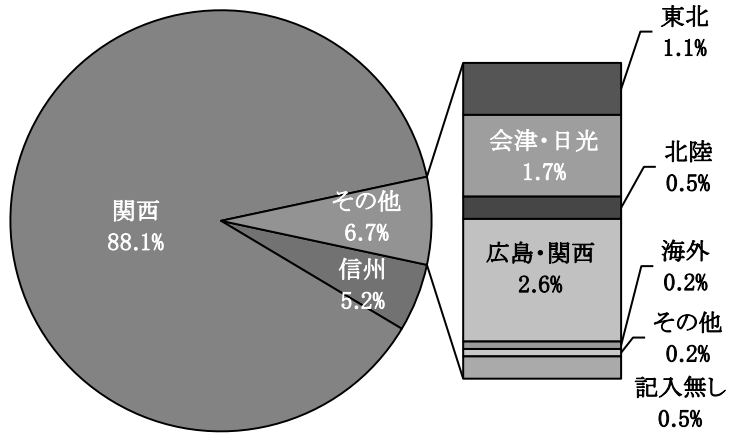
	校						
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
3日間	201	154	107	414	378	1,254	99.1%
4日間		1			1	2	0.2%
5日以上			1			1	0.1%
記入なし			2			2	0.2%

※割合1は全体数1,266校に対する値

1-(1) 実施時期



1-(3) 実施方面



(3) 実施方面

	校						合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	千葉		
東北					14	14	1.1%	
会津・日光					22	22	1.7%	
信州					66	66	5.2%	
北陸					6	6	0.5%	
関西	194	146	99	411	265	1,115	88.1%	
広島・関西	7	9	8	3	6	33	2.6%	
海外			2			2	0.2%	
その他					2	2	0.2%	
記入無し		3	1	2		6	0.5%	

※割合は全体数1,266校に対する値
 ※その他は神奈川・群馬

実施方面

・関西方面(広島含む)実施校が90.7%となっている。

・広島・関西方面が25年度から急増(24年) (25年) (26年) (27年)
 12校 ⇒ 28校 ⇒ 27校 ⇒ 33校
 広島便設定の影響が考えられる。

・東北、会津・日光、信州方面

	22年	23年	24年	27年
東北)	21校	6校	9校	14校
会津・日光)	43校	2校	4校	22校
信州)	60校	107校	97校	66校

*東日本大震災後、激減した東北方面が年々増加している。
 東北方面は震災前の67%まで回復しているが、会津・日光方面は50%と回復の速度はやや遅い。

(4)-1 訪問地(県)(複数回答・延べ数) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合1	割合2
青森県					5	5	0.4%	0.2%
岩手県					4	4	0.3%	0.2%
宮城県					2	2	0.2%	0.1%
山形県					5	5	0.4%	0.2%
福島県					20	20	1.6%	0.8%
栃木県					17	17	1.3%	0.7%
群馬県					1	1	0.1%	0.0%
東京都					0	0	0.0%	0.0%
新潟県					3	3	0.2%	0.1%
長野県					67	67	5.3%	2.7%
富山県					1	1	0.1%	0.0%
石川県					2	2	0.2%	0.1%
岐阜県					9	9	0.7%	0.4%
滋賀県	1	3	1	3	3	11	0.9%	0.4%
奈良県	195	153	98	412	248	1,106	87.4%	44.0%
京都府	200	154	107	414	271	1,146	90.5%	45.6%
大阪府	11	7	3	8	27	56	4.4%	2.2%
兵庫県	5		1	2	8	16	1.3%	0.6%
広島県	7	9	8	3	6	33	2.6%	1.3%
海外			2			2	0.2%	0.1%
記入無し等	1	3	1	2		7	0.6%	0.3%
合計(延校数)	420	329	221	844	699	2,513		100.0%

訪問地(県)

・訪問地は京都・奈良が約90%となっている。

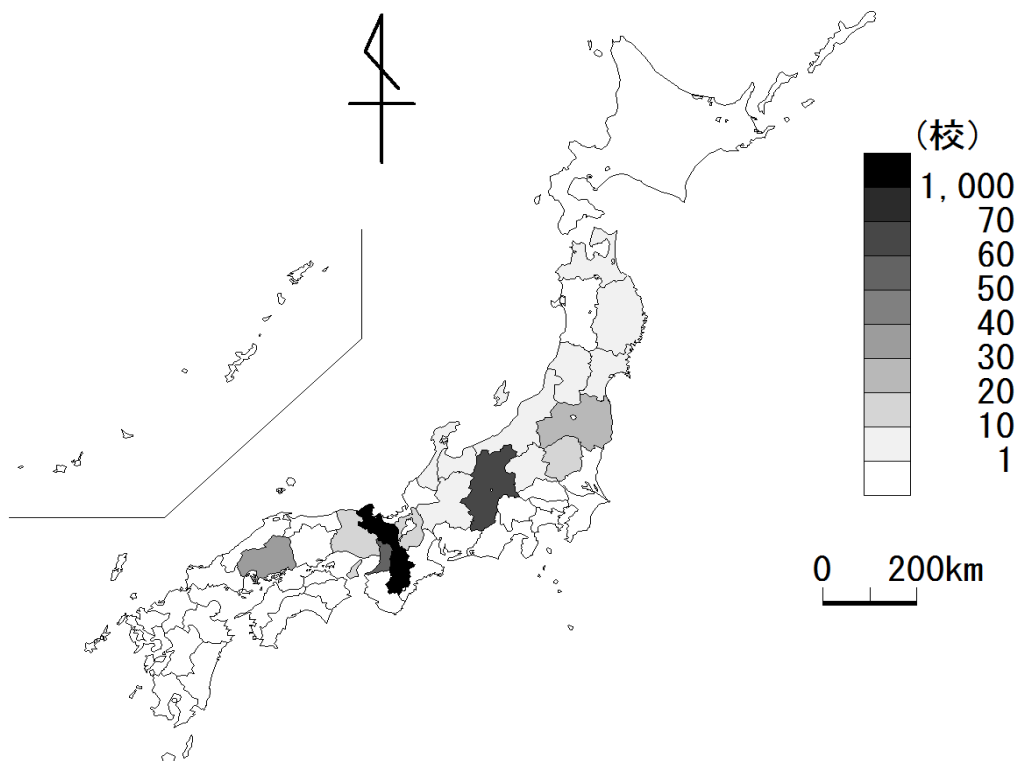
・方面別にみると、千葉県が信州方面や東北方面など、多方面へ行っている。

・長野において農家民泊や農業体験、自然スポーツ体験等を実施している。

・広島方面は各県で増加傾向が見られる。

※割合1は全体数1,266校に対する値

※割合2は延校数2,513校に対する値



(4)-3 訪問地(県)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
青森					5	5	0.4%
岩手					3	3	0.2%
岩手宮城					1	1	0.1%
宮城山形					1	1	0.1%
山形					2	2	0.2%
山形福島					2	2	0.2%
福島					5	5	0.4%
福島栃木					13	13	1.0%
栃木					4	4	0.3%
群馬					1	1	0.1%
神奈川					1	1	0.1%
新潟					3	3	0.2%
富山石川					1	1	0.1%
石川					1	1	0.1%
長野					58	58	4.6%
長野岐阜					9	9	0.7%
滋賀奈良京都大阪		1		1	1	3	0.2%
滋賀奈良京都	1	2	1	2	1	7	0.6%
滋賀京都					1	1	0.1%
奈良京都	174	139	94	399	227	1,033	81.6%
奈良京都大阪	9	3	1	7	11	31	2.4%
奈良京都兵庫	4		1	2	2	9	0.7%
奈良京都大阪兵庫					2	2	0.2%
奈良京都大阪広島		1				1	0.1%
奈良京都広島	7	7	1	1	4	20	1.6%
京都	2				6	8	0.6%
京都大阪	2	1	2		10	15	1.2%
京都大阪兵庫					2	2	0.2%
京都兵庫	1				2	3	0.2%
京都大阪広島		1			1	2	0.2%
京都広島			7	2	1	10	0.8%
ニュージーランド			1			1	0.1%
オーストラリア			1			1	0.1%
記入無し等	1	3	1	2		7	0.6%
合計(延校数)	201	158	110	416	381	1,266	

※割合は全体数1,266校に対する値

訪問地の組み合わせ

・訪問地(県)組み合わせでは、奈良・京都の二府県が圧倒的に多く、81.6%を占めている。

・関西方面において、京都・奈良は外せないという意識は根強い。それプラス、大阪、広島、兵庫、滋賀方面を組み合わせ行っている学校も少しずつではあるが増えてきている。

(4)-4 宿泊地(県) 一泊目 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
青森県					5	5
岩手県					3	3
宮城県					1	1
山形県					5	5
福島県					19	19
栃木県					3	3
群馬県					1	1
神奈川県					1	1
新潟県					3	3
長野県					60	60
石川県					2	2
岐阜県					7	7
滋賀県	1	3		5	6	15
奈良県	9	8	5	21	7	50
京都府	188	135	99	382	246	1,050
大阪府		3		1	8	12
兵庫県				1		1
広島県	3	6	3	3	4	19
海外			1			1
記入無し等		3	2	3		8
合計(延校数)	201	158	110	416	381	1,266

宿泊地

・関西方面の宿泊地については、京都が圧倒的に多い。訪問地(県)組み合わせの関係で、大阪、奈良、滋賀、広島等がそれに続くが、極めて少数で、合わせても全体の8%にも満たない。

・京都への一極集中は、今後、インバウンドの更なる増加などにより、宿舎やバスの確保の難しさ、料金の値上げなど、様々な課題等が出てくる懸念がある。

(4)-4 宿泊地(県) 二泊目 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
青森県					5	5
岩手県					3	3
宮城県					1	1
山形県					4	4
福島県					20	20
栃木県					3	3
群馬県					1	1
神奈川県					1	1
新潟県					3	3
長野県					65	65
石川県					2	2
岐阜県					2	2
滋賀県	1	2	1	5	8	17
奈良県	5	4		12	6	27
京都府	193	149	105	397	249	1,093
大阪府					7	7
海外			1			1
記入無し等	2	3	3	2	1	11
合計(延校数)	201	158	110	416	381	1,266

(4)-5 連泊状況

校

一泊目	二泊目	青森	岩手	宮城	山形	福島	栃木	群馬	神奈川	新潟	合計
青森		5									5
岩手			3								3
宮城				1							1
山形					4	1					5
福島						19					19
栃木							3				3
群馬								1			1
神奈川									1		1
新潟										3	3
合計		5	3	1	4	20	3	1	1	3	

校

一泊目	二泊目	長野	石川	岐阜	滋賀	奈良	京都	大阪	海外	記入なし	合計
長野		60									60
石川			2								2
岐阜		5		2							7
滋賀					13	1	1				15
奈良					1	3	46				50
京都					3	22	1,021			4	1,050
大阪							5	7			12
兵庫							1				1
広島						1	18				19
海外									1		1
記入なし							1			7	8
合計		65	2	2	17	27	1,093	7	1	11	

(4)-6 宿泊県別生徒数

一泊目

人

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
青森県					1,292	1,292
岩手県					683	683
宮城県					110	110
山形県					801	801
福島県					2,089	2,089
栃木県					310	310
群馬県					39	39
神奈川県					7	7
新潟県					392	392
長野県					8,784	8,784
石川県					628	628
岐阜県					778	778
滋賀県	92	443		988	912	2,435
奈良県	916	771	364	2,969	740	5,760
京都府	22,538	15,824	11,065	56,309	32,549	138,285
大阪府		289		3	357	649
兵庫県				87		87
広島県	476	490	241	433	664	2,304
海外			4			4
記入無し等				55		55
合計(延人数)	24,022	17,817	11,674	60,844	51,135	165,492

二泊目

人

山形県					653	653
福島県					2,237	2,237
長野県					9,284	9,284
岐阜県					278	278
滋賀県	92	216	175	969	1,279	2,731
奈良県	474	417		1,255	769	2,915
京都府	23,271	17,184	11,495	58,620	32,746	143,316
大阪府					342	342
兵庫県						0
広島県						0

(5) 県別旅行費用(生徒一人当たり平均額) 校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
30,000~34,999					1	1	0.1%
35,000~39,999					6	6	0.5%
40,000~44,999			1	12	50	63	5.0%
45,000~49,999			2	48	35	85	6.7%
50,000~54,999		6	2	88	59	155	12.2%
55,000~59,999	5	7	11	131	97	251	19.8%
60,000~64,999	25	23	39	113	92	292	23.1%
65,000~69,999	73	58	34	17	27	209	16.5%
70,000~74,999	74	38	14	2	5	133	10.5%
75,000~79,999	20	12	3		1	36	2.8%
80,000~84,999	3	7				10	0.8%
85,000~	1		1			2	0.2%
記入無し		7	3	5	8	23	1.8%
合計	201	158	110	416	381	1,266	100.0%

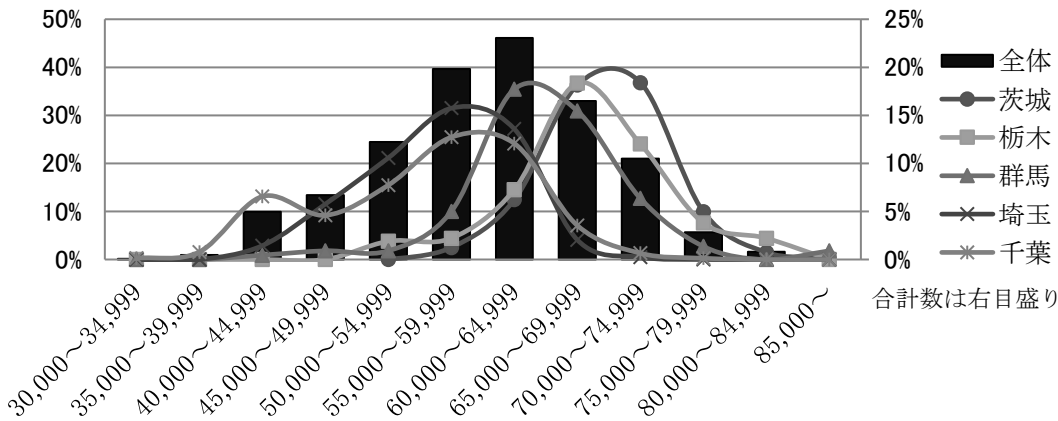
※割合は全体数1,266校に対する値

県別旅行費用

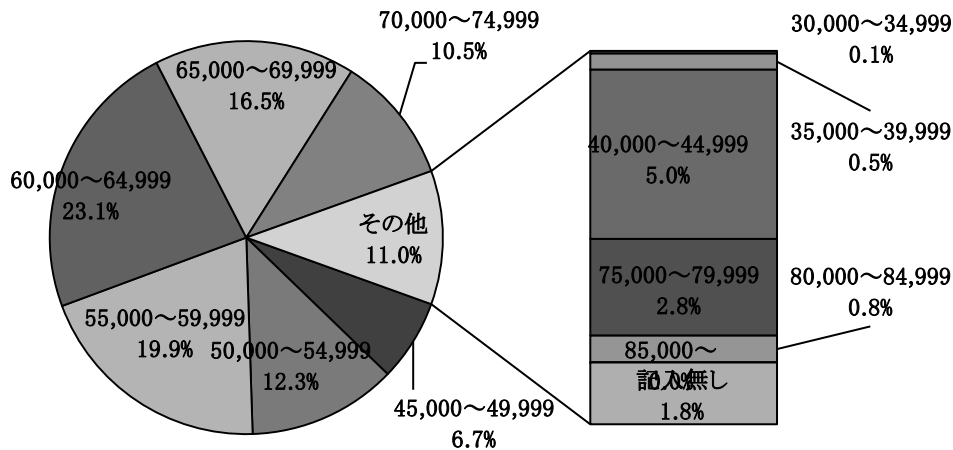
・1人当たりの平均費用は60,000~64,999円が最も多い。
 ・県別に見ると、茨城県は70,000~74,999円が最も多く、栃木県は65,000~69,999円、群馬県は60,000円~64,999円、埼玉は55,000~59,999円、千葉県は55,000~59,999円 となっている。

・千葉県は方面が多岐にわたり、また費用も広く分布している。

1-(5) 県別旅行費用



1-(5) 旅行費用

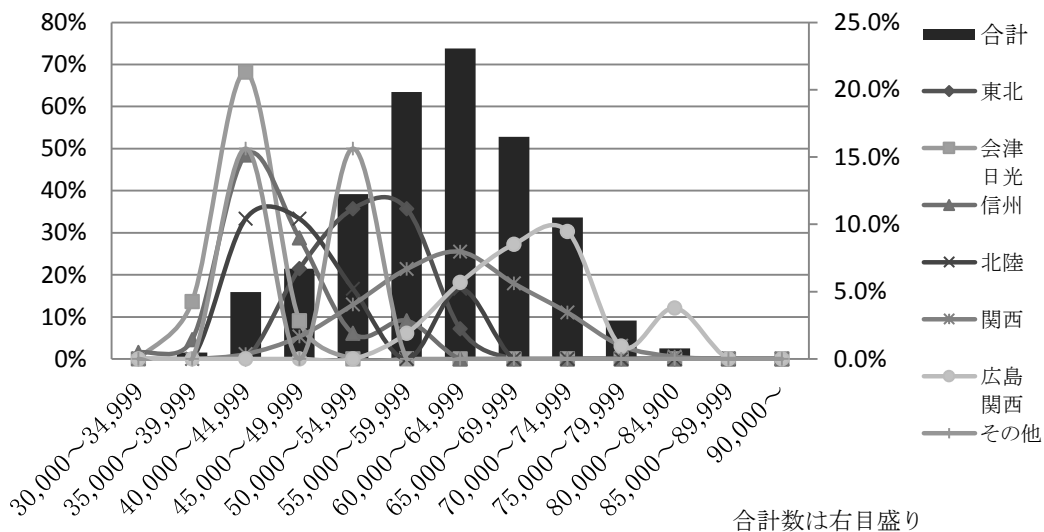


(6) 方面別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

校

	東北	会津日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	記入 無し	合計
30,000～34,999			1							1
35,000～39,999		3	3							6
40,000～44,999		15	32	2	13			1		63
45,000～49,999	3	2	19	2	59					85
50,000～54,999	5		4	1	144			1		155
55,000～59,999	5		6		238	2				251
60,000～64,999	1			1	284	6				292
65,000～69,999					200	9				209
70,000～74,999					123	10				133
75,000～79,999					35	1				36
80,000～84,900					6	4				10
85,000～89,999					1					1
90,000～							1			1
記入無し		2	1		12	1	1		6	23
合計	14	22	66	6	1,115	33	2	2	6	1,266

1-(6)方面別旅行費用



合計数は右目盛り

(7) 県別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
0	14	41	7	50	31	143	11.3%
1～499	3	1	1	6	3	14	1.1%
500～999	19	12	12	37	18	98	7.7%
1,000～1,499	25	22	23	70	68	208	16.4%
1,500～1,999	22	15	15	76	43	171	13.5%
2,000～2,499	46	26	15	49	42	178	14.1%
2,500～2,999	8	9	2	12	17	48	3.8%
3,000～3,499	26	12	7	35	30	110	8.7%
3,500～3,999	7	3		5	12	27	2.1%
4,000～4,499	7	3	1	6	19	36	2.8%
4,500～4,999	2		1	2		5	0.4%
5,000～5,499	2	4	5	8	18	37	2.9%
5,500～5,999	1		1		4	6	0.5%
6,000～	8	3	4	10	36	61	4.8%
記入なし	11	7	16	50	40	124	9.8%
合計	201	158	110	416	381	1,266	100.0%

※割合は全体数1,266校に対する値

体験活動費用

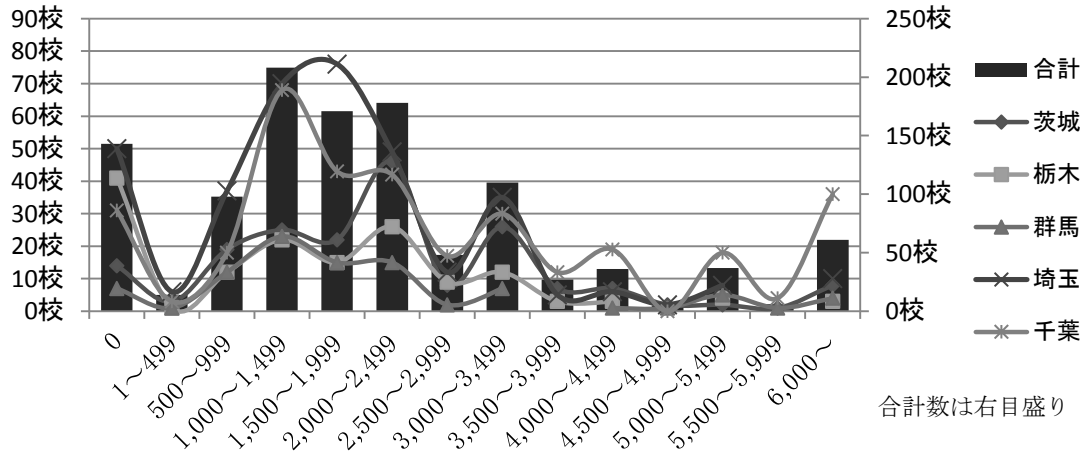
・今年度も、昨年同様、生徒一人当たりの体験費用は1,000～2,499円の範囲が最も多くなっている。

・1,000～2,499円の範囲に44%の学校が含まれる。

・体験費用は、各県とも分布域が広いのが特徴であるが、それだけ体験の内容も各学校で工夫され様々な形で実施されている。

・記入なしの学校も多く見られた。農家民泊体験の場合宿泊料も含まれる。

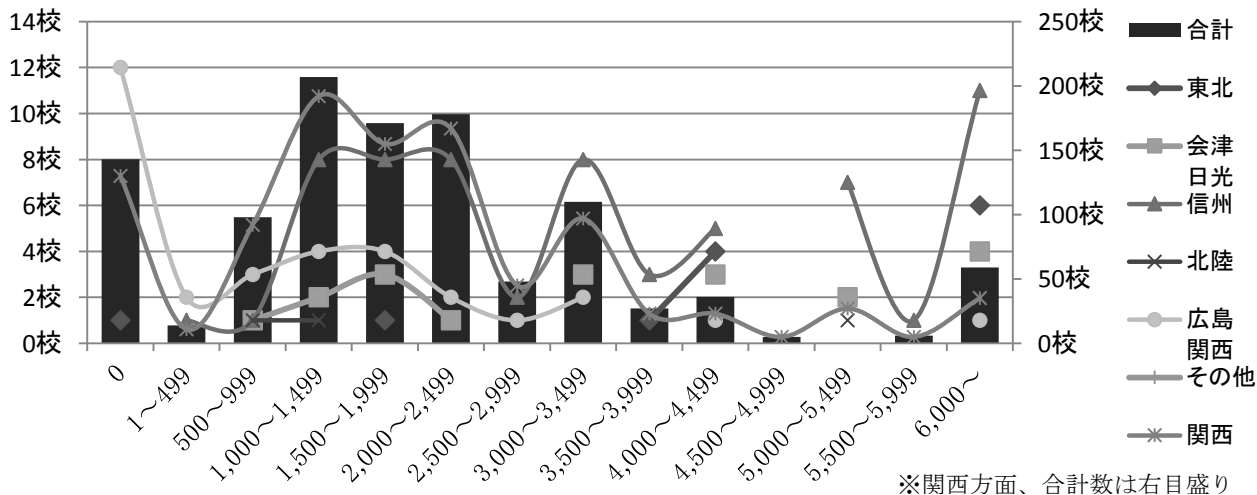
1-(7) 県別旅行費用分布



(8) 方面別体験活動費用(生徒一人当たり平均額)

	東北	会津日光	信州	北陸	関西	広島 関西	海外	その他	記入 無し	合計
0	1				130	12				143
1~499			1		11	2				14
500~999		1	1	1	92	3				98
1,000~1,499		2	8	1	192	4		1		208
1,500~1,999	1	3	8		155	4				171
2,000~2,499		1	8		167	2				178
2,500~2,999			2		45	1				48
3,000~3,499		3	8		97	2				110
3,500~3,999	1		3		23					27
4,000~4,499	4	3	5		23	1				36
4,500~4,999					5					5
5,000~5,499		2	7	1	27					37
5,500~5,999			1		5					6
6,000~	6	4	11	2	35	1	1	1		61
記入無し	1	3	3	1	108	1	1		6	124
合計	14	22	66	6	1,115	33	2	2	6	1,266

1-(8) 方面別体験費用分布



(9) 方面別費用平均(生徒一人当たり平均額)

円

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額	最低額
東北					53,576	53,576	60,000	48,000
会津・日光					41,234	41,234	48,503	36,000
信州					45,050	45,050	59,500	33,500
北陸					49,133	49,133	62,000	42,000
関西	68,979	67,407	63,626	56,279	58,732	61,187	87,000	41,212
広島・関西	75,636	69,831	68,756	62,659	64,719	69,201	83,000	57,000
海外			150,000			150,000	-	-
その他					47,500	47,500	53,000	42,000
平均	69,211	67,536	64,013	56,326	55,097	60,061	-	-
最高額	87,000	81,585	77,000	71,000	79,481	-	87,000	-
最低額	55,000	50,000	44,210	41,212	33,500	-	-	-

※小数点以下切り捨て

※平均額、最高額は海外を除く

方面別費用平均

・関西方面の平均費用は61,187円となり、昨年の59,567円より1,620円の増となった。

・広島・関西方面では1,499円増加している。
 ・東北方面は千葉県が実施しているが、昨年度に比べて2,863円の増となった。

・今年度の修学旅行費用平均は、昨年度より1,758円増の60,061円となり、初めて6万円を超えた。

(10) 方面別体験費用平均(生徒一人当たり平均額)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	平均	最高額	最低額
東北					6,266	6,266	10,800	0
会津・日光					3,770	3,770	8,650	800
信州					4,041	4,041	20,180	300
北陸					4,948	4,948	10,820	900
関西	2,202	1,624	1,961	1,791	2,204	1,952	16,530	0
広島・関西	2,844	933	1,230	275	773	1,354	12,868	0
海外			10,000			10,000	10,000	10,000
その他					4,137	4,137	6,974	1,300
最高額	13,000	9,400	10,000	15,000	20,180	-	-	-

※小数点以下切り捨て

方面別体験費用

・体験費用はその目的や旅行方面により体験内容も異なるため様々である。

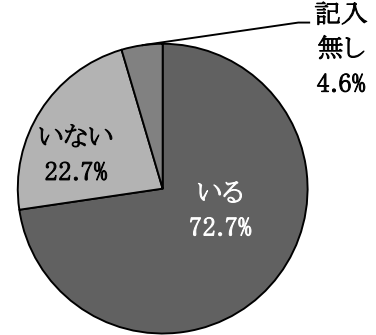
・関西地区の体験活動における平均費用は1,952円で、昨年の1,993円と殆ど変わっていない。

(11) 不参加生徒の有無

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
いる	156	128	67	278	291	920	72.7%
いない	39	27	37	101	84	288	22.7%
記入無し/不明	6	3	6	37	6	58	4.6%

※記入無し/不明 には平成26年7月以降実施の学校も含む
 ※割合は全体数1,266校に対する値

1-(11)不参加生徒の有無



(12) 理由別不参加の延校数と生徒数

		茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計
合計	学校数	156	128	67	278	291	920
	生徒数	463	419	214	1,208	1,111	3,415
経済的理由	学校数	25	22	11	31	25	114
	生徒数	45	28	12	52	38	175
不登校	学校数	125	108	57	240	259	789
	生徒数	285	290	147	796	826	2,344
疾病	学校数	44	29	19	105	75	272
	生徒数	59	42	25	162	104	392
事故	学校数	5	1	1	6	7	20
	生徒数	6	1	1	7	8	23
その他	学校数	43	38	19	93	71	264
	生徒数	67	58	29	192	121	467

※内訳不明の学校があるため、合計数は一致しない

理由別不参加生徒数

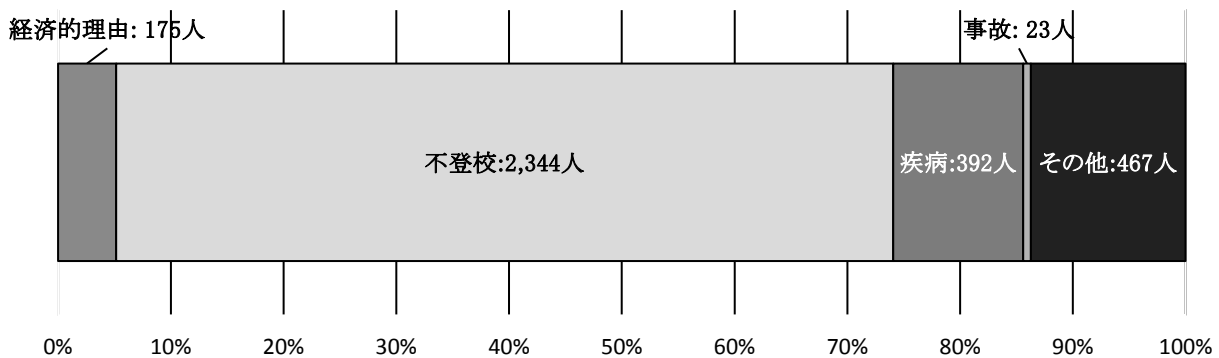
・不参加生徒のいる学校は920校/1,266校となり、昨年度と比べると25校増えている。

・昨年度は全校中73.2%の学校に不参加生徒がいた。今年度も72.7%とほぼ同じ割合の学校にいることになる。

・不参加生徒の理由は69%が不登校によるものである。

・経済的理由による不参加生徒数は175名にのぼり、昨年度より15名増加している。不登校に分類されている生徒の中にも経済的理由に起因して不登校になっている生徒もいることから、実際に経済的理由による不参加生徒数は175名よりも多いと思われる。

1-(12)理由別不参加生徒数



2 北陸新幹線の利用について

(1) 北陸新幹線利用希望について

	校					合計	割合
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉		
ア:利用したい	2	1	1	2	8	14	1.1%
イ:利用しない	181	145	98	350	266	1,040	82.1%
ウ:検討したい	15	10	10	63	101	199	15.7%
エ:その他	2	2	1	1	6	12	0.9%
記入なし	1					1	0.1%
合計	201	158	110	416	381	1,266	100%

その他

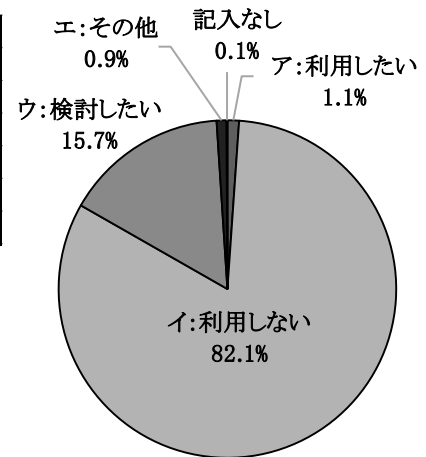
まだ未定
検討していない

広島をしばらく継続する
担当学年により検討

(2) 利用希望年度

	校					合計
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	
29年度	1	1	1		4	7
30年度				1	3	4
31年度					1	1
合計	1	1	1	1	8	12

2(1)北陸新幹線利用希望



北陸新幹線利用希望について (検討したいを含む)

・千葉(28.6%)、埼玉(15.6%)
群馬(10.0%)、茨城(8.5%)
栃木(7.0%)

・まだ全体的には少ないものの、「検討したい」という学校が約16%あることは関心の高さを示している。千葉県は従来から多方面への修学旅行を実施している関係もあり、高い数字になっている。

・希望年度も29年、30年が多いのは現実的な計画をもって取り組んでいる様子が窺える。

3 旅行会社の選定について

(1) 選定について

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:毎年選定	120	154	88	314	334	1,010	79.8%
イ:2、3年毎	25	1	18	74	41	159	12.6%
ウ:ローテーション	14		3	27	3	47	3.7%
エ:その他	42	1	1	1	3	48	3.8%
記入なし		2				2	0.2%
合計	201	158	110	416	381	1,266	100.0%

その他

希望業者なし

会社が決まっている

ほぼ固定

入札

市修学旅行連合が2～3年ごとに選定

市内中学校で選定

市連合で3年ごとに選定

旅行会社の選定について

・平均すると約80%の学校が毎年選定を行っているが、県によって若干状況は異なる。2～3年毎を含めると、9割以上の学校が様々な方法で選定を行っていることになる。

・重視する点では、金額が一位で84.2%、次いで安全面と宿泊地の立地条件が約70%で並び、宿舍の条件が60.3%でそれに続く。総合的な宿舍の条件は大きな選定の要素であることが窺える。

企画の視点が各県とも低い数字になっている。

(2) 選定の際、重視する点(複数回答)

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:金額	155	143	94	351	323	1,066	84.2%
イ:安全面	136	102	58	301	286	883	69.7%
ウ:企画	84	59	45	146	193	527	41.6%
エ:立地等条件	94	129	71	338	253	885	69.9%
オ:旅行会社	99	62	55	214	230	660	52.1%
カ:宿舍の条件	86	113	74	301	190	764	60.3%
キ:その他	17	1	4	5	10	37	2.9%
合計	671	609	401	1,656	1,485	4,822	

その他(詳細)

下見費用の学校負担金

旅行会社の引率人数

PTAの役員が決める

期日

市修学旅行委員会で選定

市全体で決定している

指定期日と内容の一致

宿舍は決まっている

初めての広島なので、広島での内容

入札

食物アレルギー対応

如何に生徒が学べるかも重視しています

保護者代表が選定に参加

本校の希望する条件を満たしている

旅行日

旅行目的の実現度

連合組織の規定

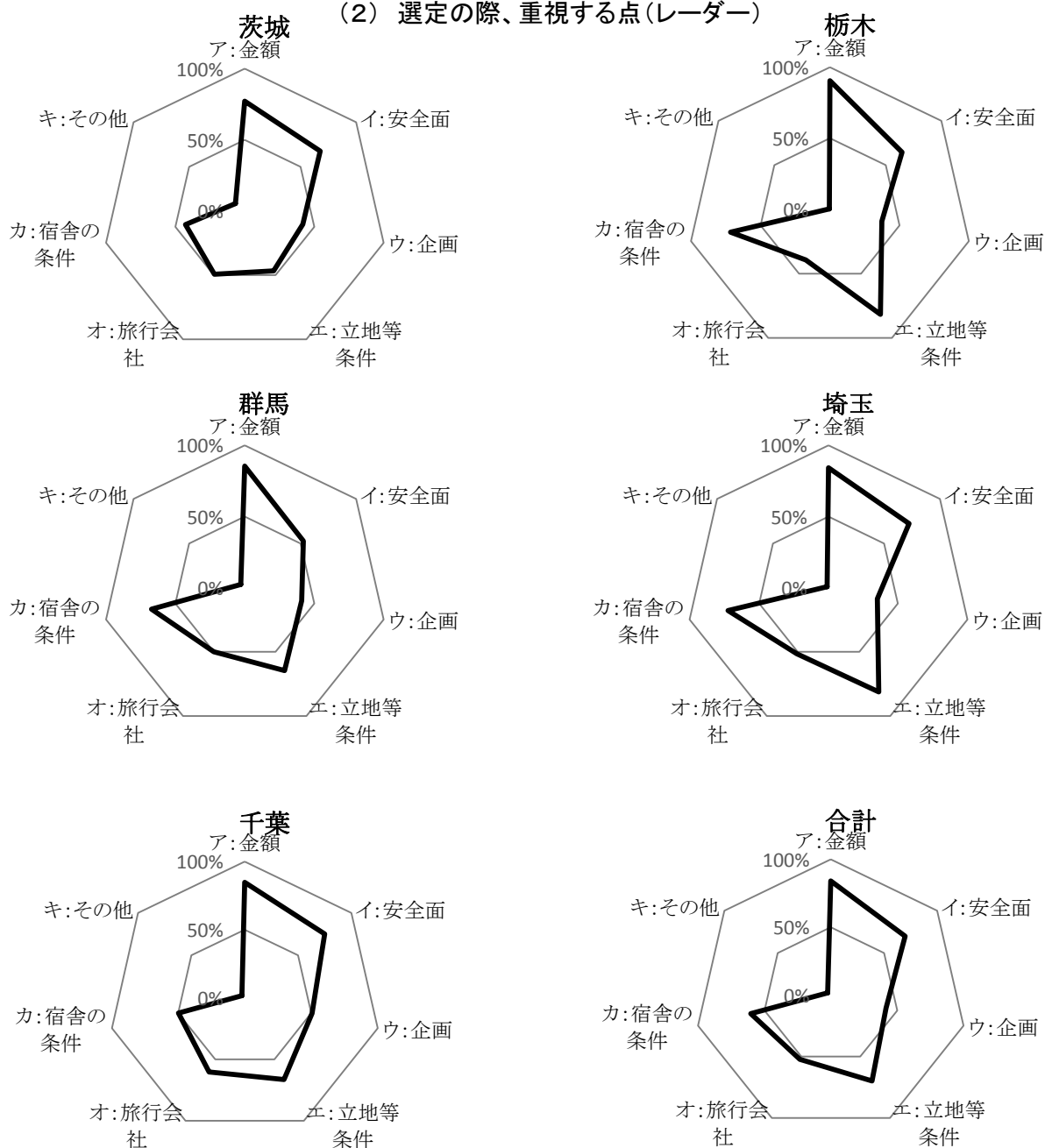
数社によるプレゼン後、会議で決定

体験活動の充実

担当者の誠意(人柄)

添乗員数

(2) 選定の際、重視する点(レーダー)



選定の際、重視する点(レーダー)

・いずれの県も重視する点では、金額がトップである。昨今の消費税率の引き上げ、バス代の値上げ等を考えると、内容も充実させたいが費用も気になるのは、むしろ、当然かも知れない。

・金額、宿泊地の立地条件、宿舎の条件が上位を占めるのは、旅行会社に期待する内容項目として頷けるところである。企画、安全面について、思ったほど高くないのは、旅行会社に期待するのではなく、学校で行うものであるという意識の表れか。

4 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

(1) 現地で最も影響を受けたこと(複数回答)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:実物を見る	124	102	72	257	166	721	57.0%
イ:予想以上の感動	67	64	37	147	113	428	33.8%
ウ:実際に体験する	53	28	27	88	100	296	23.4%
エ:人との触れ合い	21	11	10	48	93	183	14.5%
オ:学校での意欲向上	9	7	4	22	26	68	5.4%
カ:その他				1	1	2	0.2%
合計	274	212	150	563	499	1,698	

※割合は全体数1,266校に対する値

その他(詳細)

共通の思い出、感動を味わうことができる

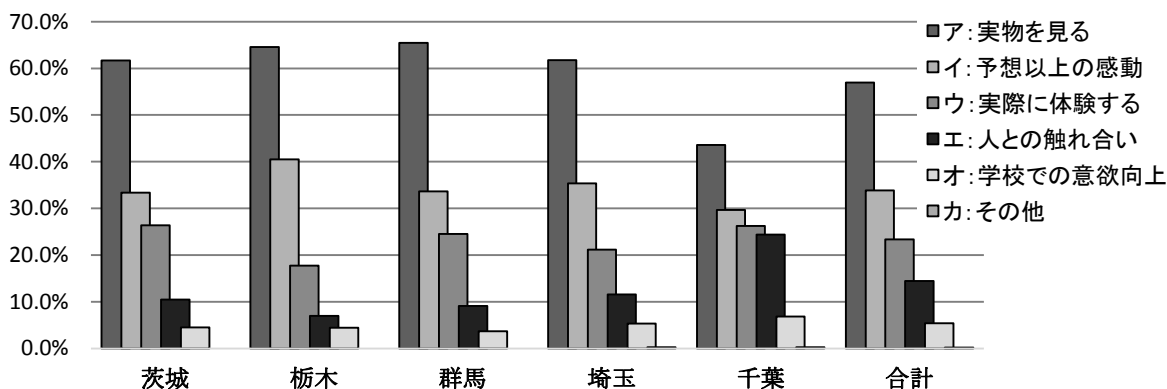
半年かけて調べてきた内容を現地で検証し、実物で見ること

学びの集大成を図る修学旅行について

・現地で最も影響を受けたことについては、「実物を見る」項目が一番である。学習指導要領の「平素と異なる生活環境にあって、豊かな自然や文化に触れる体験を通して」の趣旨から照らしても納得出来る数字と思われる。

同じく学習指導要領の趣旨でもある「学校での意欲向上」の項目では、まだ低い数字に留まっている。

4(1)現地で最も影響を受けたこと



(2)-1 現地での体験学習について

体験学習の実施について(複数回答)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:特有の体験	171	113	87	312	282	965	76.2%
イ:生徒が選択	6	11	8	28	32	85	6.7%
ウ:体験実施せず	19	27	13	70	55	184	14.5%
エ:その他	4	5	2	7	10	28	2.2%
未回答	2	2	1	1	3	9	0.7%

※割合は全体数1,266校に対する値

その他(詳細)

民泊

3日目のクラス学習で体験学習を取り入れている

クラス別行動で希望したクラスは実施する

学年実施の場合ア、班別活動の場合イ

会津市内の事業所にて職場体験学習を実施

今年度は宿泊地と時間の関係で実施できなかった

時間的に分泊であったこと、大規模校で受け入れ先がなくできなかった

農作業

生徒の希望で着物体験

班でやりたいことを選ぶ

現地特有のものを生徒が選択

コミュニケーション活動

班またはクラスで選択するので実施しない班が多い

体験学習の実施について

・各県とも8割~9割の学校が体験学習を取り入れて、現地特有の体験をすることに重点が置かれている。現地での体験学習を実施せずと回答している学校が約15%あった。

(2)-2体験学習の内容について(複数回答)

校

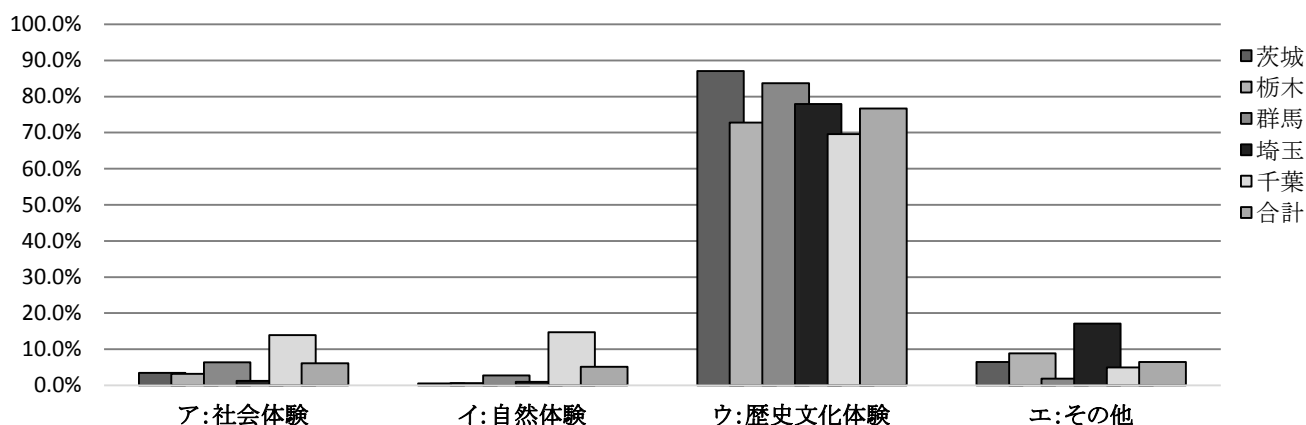
	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:社会体験	7	5	7	5	53	77	6.1%
イ:自然体験	1	1	3	4	56	65	5.1%
ウ:歴史文化体験	175	115	92	324	265	971	76.7%
エ:その他	13	14	2	34	19	82	6.5%
未記入・空欄	13	30	14	71	57	185	14.6%
合計	209	165	118	438	450	1,380	

※割合は全体数1,266校に対する値

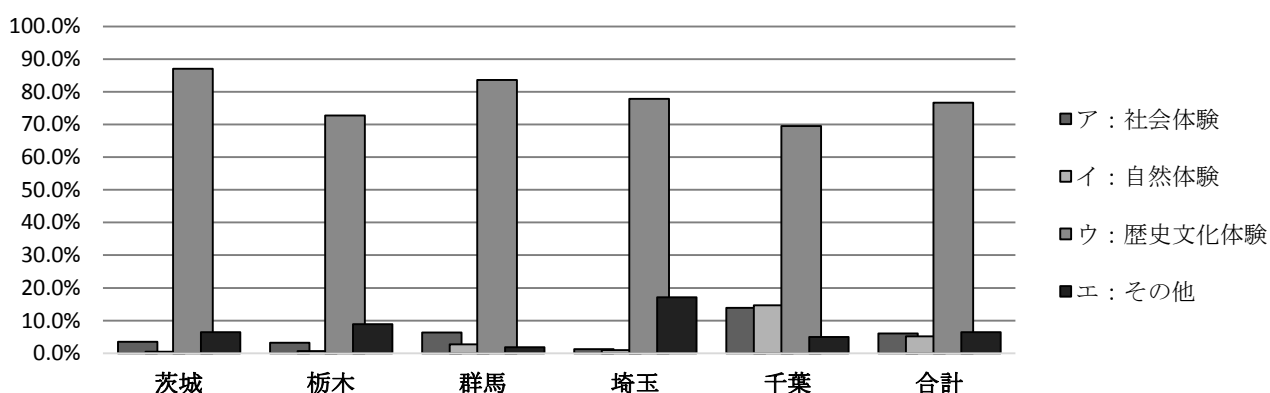
体験学習の内容

・歴史文化体験が圧倒的に多いが、その他の項目を見ても、極めて多種多様な内容となっており、その豊かさと充実ぶりは、色々な意味での可能性を感じさせる。

4(2)-1体験学習の内容について(学習内容別)



4(2)-1体験学習の内容について(県別)



ア:社会体験

広島で語り部から戦争の話を書く
平和学習、被爆者講話
平和学習、平和祈念式典への参加
平和祈念公園内のフィールドワーク

神戸防災学習
震災・防災体験学習
震災学習
震災講話、さっぱ船、民泊
船からの震災学習
南三陸町震災体験を聞く
ホテルでの避難訓練

山菜採り
田植え
農業
農業通してのボランティア
農家民泊
農作業体験
明日香村体験
林業体験
地引網、船釣り、磯釣り

座禅 茶道 扇子作り 八つ橋作り
舞妓さんへのインタビュー
延暦寺で法話と清掃活動

高校生との交流
高校訪問、ホームステイ
B&S(Brother&Sister)
英会話
現地の外国の方と英語でコミュニケーション
ペンション清掃

イ:自然体験

パラグライダー
サイクリング
ジップライン
コルチナアドベンチャー
アウトドアスポーツ
アーチェリー
グラススキー
EXアドベンチャー
トロッコ
テニス

陶芸
イチゴ作り
蕎麦打ち
農場体験

沢登り
キャニオニング
クライミング
ボルダリング

ウェイクボード
カヌー
カヤック
クリアボート
モーターボート体験
ラフティング
釣り

ハイキング
トレッキング

マウンテンバイク
マウンテンボード

野球観戦

鹿寄せ
乗馬

スノーボード
スキー

ウ:歴史文化体験

食品作り
アイス作り
ジャム作り
パン作り
おやき作り
カップヌードル作り
京菓子作り
餃子作り
郷土料理
そば打ち
たこ焼き作り
肉まん作り
ソーセージ作り
ピザ作り
和菓子作り
わさび漬け
八つ橋作り

起き上がり小法師作り
かんざし作り
法被作り
漆塗り
竹細工
手捻り体験
陶芸体験
赤べこ作り
友禅染体験
金箔作り
草木染め体験
ろくろ体験
民芸品作り
織物体験
型絵染め体験
一刀彫絵付け
扇子作り
組紐作り
さるぼぼ作り
刺繍
とんぼ玉作り
握り墨
匂い袋
蒔絵
和綴じ製本

殺陣体験
ちんどん屋体験
雅楽体験、鑑賞
お茶体験
京炎そでふれ
昇殿参拝
舞妓体験
狂言
着物体験
写経体験
お琴
漫才師の話術体験
ブッシュダンス
百人一首合唱奉納
座禅
大茶盛体験

ストラップ作り
キャンドルスタンド作り
オルゴール作り
アロマ作り
ガラス絵彫り
クラフト作り
リョウター体験
時計作り
フォトフレーム作り
マイ箸作り
旅行記表紙作り
万華鏡作り
ブレスレット製作
マグカップ絵付け体験
ガラス細工
革細工
切り絵

京舞鑑賞
舞妓鑑賞
上方落語
吉本漫才鑑賞
松本城見学
法話
講話

エ:その他

ご祈祷	寄席体験	菓子作り	現地の人との触れ合い(郷土料理、民芸品)
座禅体験	トロッコ列車	清水焼、絵付け	現地の人に1対1のインタビュー
能体験	舞妓鑑賞	陶芸	京都大学キャンパスツアー
着物体験	舞妓体験	念珠作り	インタビュー
法話・説話	昇殿参拝	扇子絵付け	
琵琶湖クルーズ		かまくらづくり	今年度は予算の都合で行えなかった
中尊寺座禅体験		さるぼぼ作り	語学研修、ホームステイ
能・狂言鑑賞等		リンゴキャンドルづくり	体験先による
吉本芸人との漫才・レク		そば打ち	アイウが混ざっている
ディナークルーズ		和菓子作り	
夜間の特別拝観、献灯体験			
USJで映画の世界を体験			
キャリア教育の一環として絵師による講義			

(2)-3 体験学習 時間について

校

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:1時間以内	89	59	36	157	83	424	33.5%
イ:2時間以内	76	58	45	164	146	489	38.6%
ウ:3時間以内	12	6	7	15	58	98	7.7%
エ:その他	4	2	4	2	31	43	3.4%
合計	181	125	92	338	318	1,054	

※割合は全体数1,266校に対する値

その他(詳細)

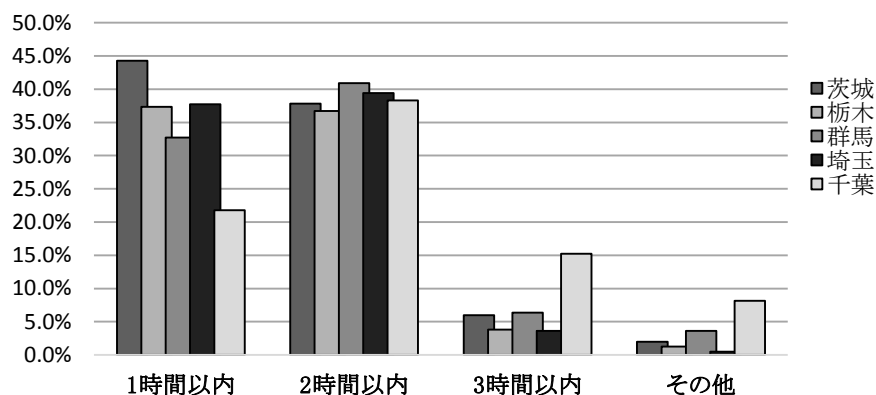
1時間×2コマ	半日～1日
3時間以上	1日
4時間	2時間+1日
4～5時間	1日～2日
5時間	1泊2日
3時間×2	3日間
6時間	生徒の選択による
半日	班ごとに違う
18時間	農家ごと

体験学習の時間について

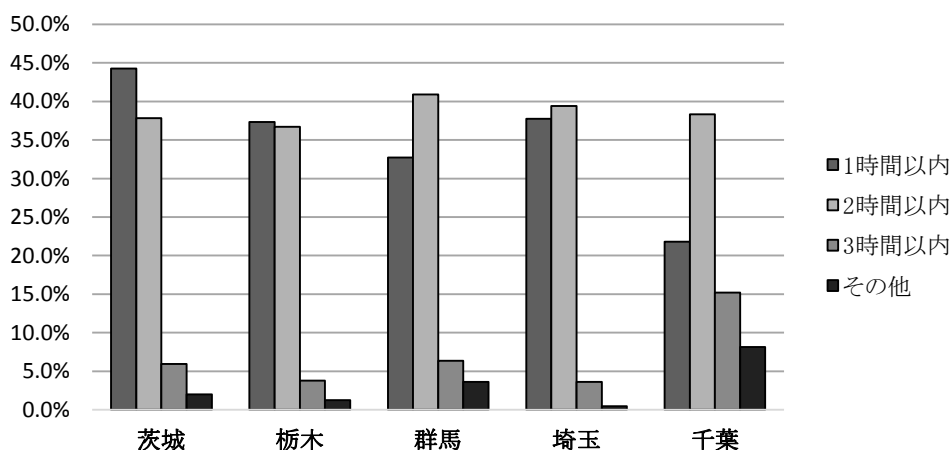
・33.5%の学校が1時間以内の取組となっている一方で、38.6%の学校が、1時間から2時間の取組を、7.7%の学校が3時間以内で、更に、3.4%の学校がそれ以上の時間を使って体験学習に取り組んでいる。

方面や目的、具体的なねらい等によって、活動の時間と内容は様々なヴァリエーションをもっている。体験学習を重要視している様子が窺える。

4(3)-1 体験学習の時間



4(3)-1 体験学習時間(県別)



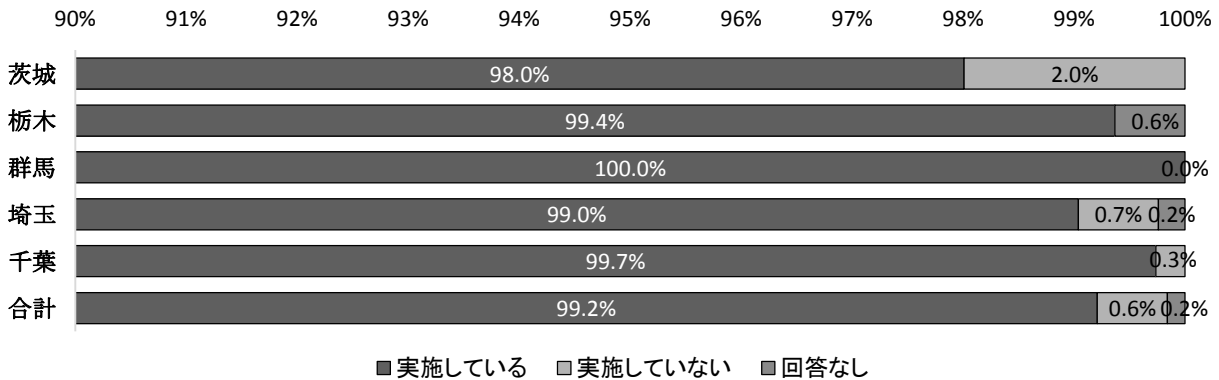
(3) 事後学習について

(3)-1 事後学習の実施について

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
実施している	197	157	110	412	380	1,266	99.2%
実施していない	4			3	1	8	0.6%
回答なし		1		1		2	0.2%
合計	201	158	110	416	381	1,266	

※割合は全体数1,266校に対する値

4(3)-1 体験学習時間(県別)



■実施している □実施していない ■回答なし

事後学習の内容について

(3)-2 事後学習の内容について(複数回答)

	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	合計	割合
ア:壁新聞作成	106	97	80	279	272	834	65.9%
イ:紀行文、俳句、短歌	74	46	27	120	164	431	34.0%
ウ:自己研究	52	37	33	96	61	279	22.0%
エ:文化祭等での発表	45	48	34	59	136	322	25.4%
オ:自己評価	35	45	22	113	95	310	24.5%
カ:現地での研究調査	9	8	4	29	13	63	5.0%
その他	19	22	4	38	42	125	9.9%
回答なし	6	1	1	4	2	14	1.1%
合計	346	304	205	738	785	1,544	

※割合は全体数1,266校に対する値

・壁新聞を作成している学校は約66%と最も多く、次いで紀行文、俳句、短歌の作成となっている。そして文化祭等での発表を作っている学校も25%と多く、生徒たちの意欲作りにつながっているものと推測できる。「事後のまとめや発表などを工夫し、体験したことがより深まるよう」と言う、学習指導要領の趣旨を生かした各学校の取組が窺える。

その他(詳細)

紙芝居の作成等

感想文

切り絵作成, 英作文, 写真コンクール

個人新聞作成・掲示

個人新聞俳句短歌作り

個人新聞をパソコンで作成する

個人で新聞を作成し, 学年でまとめて冊子にする

個人で旅ノート作成し, 読み合う

個人の修学旅行ブックを作成する

個人の振り返り、フォトコンテスト

個人レポート、作文

スクラップブックの作成

スケッチブックB6に修学旅行での活動をまとめる

全てをまとめて冊子にし、全員に配布する

体験して作ったものを展示する

トラベルノートを制作

パンフレットを作成

旅行記(アルバム)の制作

旅行記を作成し、文化祭で掲示

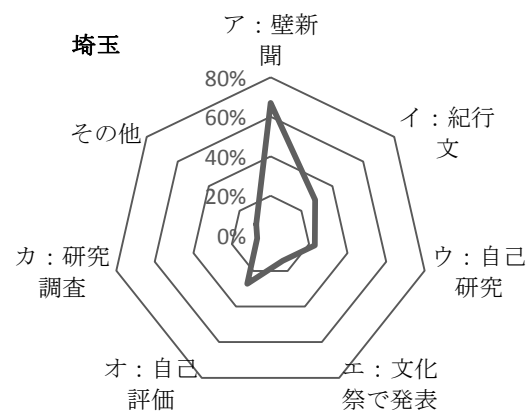
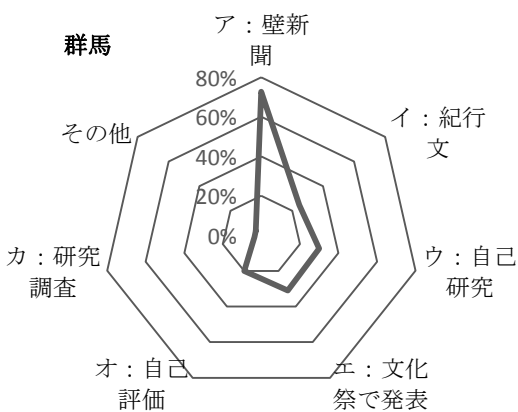
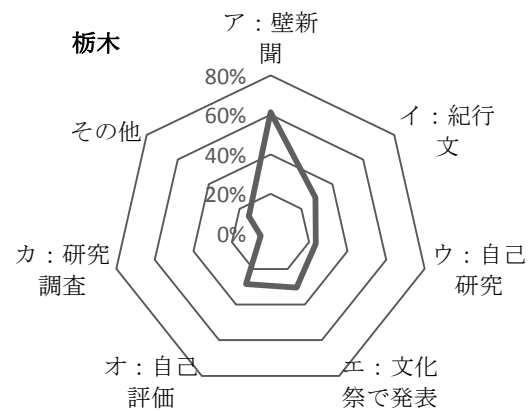
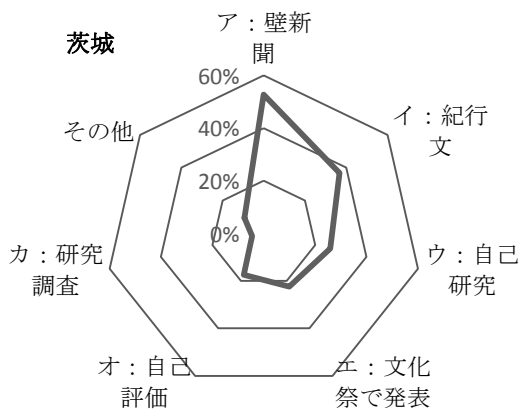
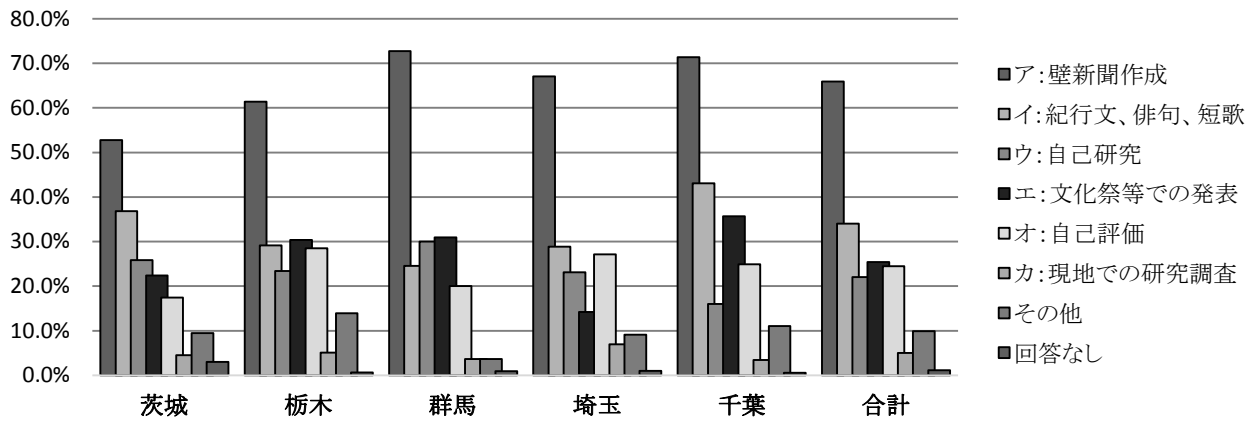
旅行記をスケッチブックにまとめる

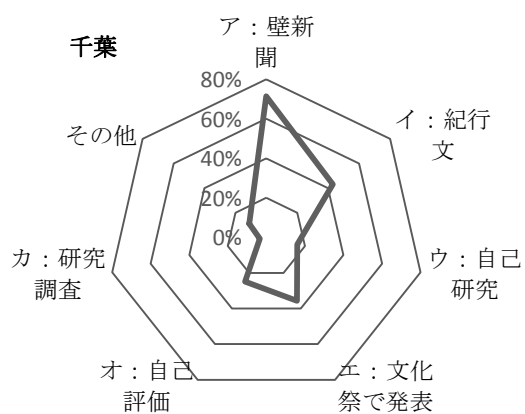
お世話になった方々に感謝の手紙を書いて送る
手紙交流
手紙を書き、感謝の気持ちを伝える。
タクシー運転手さんへのお礼の手紙作り

地元の観光地紹介の参考
ア・エの評価を全員で行う
総合的な学習の一つとして学習を深める
写真や説明文を入れ、板目表紙による屏風状のものを作成

2年生への修学旅行の発表会
学年集会で発表
学年部会の授業参観で発表
英語作文で発表
英語でプレゼンテーションを行う
修学旅行について2学年に伝える機会をもつ
新聞に限らず班ごとにまとめを行い発表する
班ごとにプレゼン作成、発表

4(3) - 1 体験学習時間(県別)





(3) - 2 体験学習内容別事後学習(複数回答) 校

	社会 体験	自然 体験	歴史 体験	その他	合計
ア:壁新聞作成	54	48	633	45	780
イ:紀行文、俳句、短歌	27	22	334	37	420
ウ:自己研究	16	11	232	17	276
エ:文化祭等での発表	32	27	255	21	335
オ:自己評価	19	16	244	24	303
カ:現地での研究調査	4	6	51	4	65
その他	5	6	89	14	114
合計	157	136	1,838	162	2,293

Ⅲ 調査結果から

1 北陸新幹線の利用希望について

- ・「利用したい」は関東地区5県で14校、全体的には1.1%とまだ少ないが、「検討したい」を含めると213校、16.8%となり、各県とも関心を持っていることが窺える。
- ・千葉県は従来から各方面への修学旅行を実施しているが、「利用したい」が8校、「検討したい」の101校を含めると109校、全体の約28.6%の学校が関心を示している。
- ・一方で、千葉県以外の学校では、「利用しない」の回答が、それぞれ90%程度と、まだ、多くの学校では関西方面への修学旅行が中心となっているようである。

2 修学旅行実施旅行会社の選定について

- ・各県とも、約80%の学校が毎年選定を行っている。2～3年ごとを含めると9割以上となり、ローテーションや市単位での選定を大きく上回っている。
- ・旅行会社の選定にあたって重視する点については、「金額」が各県とも共通の1位で、2位以下については、「立地条件」、「安全面」、「宿舎の条件」が上位を占めていて、それぞれ60%を超えている。バス代等の値上げもあり、費用については各学校でも最大の関心事であることには間違いない。

また、その他の回答の中には、「PTAの役員が決める」、「保護者の代表が選定に参加」など、教員以外の意見を取り入れているケースも見られた。

一方で、「企画」と回答している学校はあまり多くはないが、その他の回答の中には、「如何に生徒が学べるかも重視しています」と言うものもあった。

3 「学びの集大成を図る修学旅行」の取組について

(1) 現地で最も影響を受けたこと（複数回答可）

- ・1位は何と言っても「実物を見る」の57%である。実際に教科書で学んだことを、見ることや触れることの感動には、計り知れないものがある。また、予想を超えた「大きさ」や「美しさ」など、視覚や聴覚などの五感から得る感動も、大きな影響を与えることが、改めて分かる。感性を育む上において、修学旅行で現物に触れることの大切さがこのようなことからもしっかりと見えてくる。

(2) 現地での体験学習について（複数回答可）

- ・「現地特有の体験学習を意識して取り入れている」が76.2%と圧倒的に多く、一方で「生徒に選択させる」も6.7%あり、現地特有のものを意識しながらも、色々と工夫して実施していることが感じられる。
- ・体験学習の内容については、「歴史文化体験」が76.7%と群を抜いているが、実施方面の88.1%が関西方面（京都・奈良方面）であることを考えると極めて当然の結果とも言える。

一方で、その他の項目を見てみると、実に多種多様な内容となっており、その豊かさと充実ぶりは、色々な意味での可能性を感じさせる。

- ・体験学習の時間は、2時間以内の学校が最も多く、38.6%となっている。1時間以内の学校、33.5%と合わせると約7割以上(72.1%)の学校が1時間から2時間の体験学習を行っていることになる。
- ・体験学習の一人あたりの費用は、1,000円～2,499円の範囲内で実施している学校が44%と一番多いが、県によって、また、学校のねらいによってかなりの差があるのが実情である。
- ・その他、大学キャンパスツアー、現地の人と一対一でのインタビュー、ホームステイなど、現地の人々とより一層深く関わるような試みなども見られる。数年前とは明らかに変化している様子が窺える。

(3) 事後学習について (複数回答可)

- ・事後学習については、99%の学校で実施されているが、壁新聞の作成を行っている学校が約65.9%と最も多く、次いで、紀行文、俳句、短歌等の作成となっている。そして、文化祭等での発表の場を設けている学校は25.4%、自己研究が22.0%、自己評価が24.5%と、「学校における学習活動を更に充実・発展させること」という、学習指導要領の旅行・集団宿泊的行事のねらいや、表現能力、コミュニケーション能力の育成にも配慮され、事後の学習を通して学習の定着、深化にもつながっている。
- ・事後学習の内容で、その他の項目は、9.9%と割合的には決して多くはないが、その内容は極めて多様である。その多様性には注目したい。「お礼の手紙を送る」という内容のものもあるが、指導者の細やかな配慮などを窺うことが出来る。
「学びの集大成を図る修学旅行」につなげるためにも、事前も含めた事後学習の重要性について認識を新たにしていきたい。実際に体験することにより興味関心をいっそう深める、ということで学習の深化にもつながる。修学旅行を企画する上で一つの大切な要素として考えていきたい。

IV まとめと今後の課題

<まとめ>

- ・本年度も、関東地区公立中学校修学旅行委員会では「学びの集大成を図る修学旅行 ～感性をはぐくむ修学旅行～」をテーマとし、調査研究を実施してきた。
今年度は、特に、
 - ① 現地において現物に触れて最も影響を受けたと思われることについて
 - ② 現地での体験学習について
 - ③ 修学旅行後の事後学習について
 上記の3つを柱に調査研究を進めている。

言うまでもなく、現行学習指導要領における修学旅行のねらいは、豊かな自然や文化に触れる体験を通して、生涯の楽しい思い出を作ることが出来ること。学校における学習活動を充実・発展させること、そして、非日常の旅と言う体験を通して、人間としての生き方についての自覚を

深めることであることは周知の通りである。

そのために、学びの集大成として、修学旅行を、感性を育てる重要な教育活動の場として捉えていきたい。

今回、前橋市立広瀬中学校の諸橋賢一先生からは「主体的に作り上げる修学旅行 ～学びの集大成に向けて～」と題し、生徒たちの考えや話し合い、自己決定を大切にしたい、達成感溢れる修学旅行づくりの実践発表である。

また、渋川市立伊香保中学校の高橋正博先生からは「豊かな感性をはぐくみ、感動を生む修学旅行 ～テーマ追究学習を中心として～」と題し、テーマ追究学習を取り入れ、生徒たちが課題を追究する過程で、感性を育み、その喜びや感動を表現できるようにする実践例の発表である。

これらの2つの実践例と調査研究されたアンケートは、今後の各学校の「修学旅行」の方向性を考える参考にさせていただき、一層充実した修学旅行が展開されるようになればと考えている。

<課題>

- (1) 関修委の県別旅行費用の平均が、今年初めて6万円を超えた。消費税率の引き上げやバス代の値上げ等に伴う経費の高騰にどう対応して、質の高い修学旅行を実現していくか、学校としては頭の痛い問題である。特に、遠隔地の学校や少子化で生徒数が減っている学校などでは、その影響は更に深刻である。教育旅行としての社会的な理解と支援を得られるような公的配慮・優遇措置等について求めていくことも必要ではないか。
- (2) 関修委の訪問地の9割が京都・奈良となっていて、しかも京都連泊が81%と圧倒的に多い。関東地区という土地柄故のこともあるが、他の選択肢も修学旅行の目的を達成する上で、魅力的なところは多い。情報発信・交換を積極的に行っていきたい。
- (3) 修学旅行における体験学習の意義は、以前と比べて更に大きくなってきている。従来からある歴史体験をはじめ、自然体験、スポーツ体験、職業体験等、受け身の体験だけでなく、能動的な体験も含めて、その広がりや可能性をどう捉えていくかという視点も重要と考える。
- (4) 何らかの理由で修学旅行に参加できない生徒の数は、関修委5県で3,415人、学校数では920校に上る。その主な理由のトップは、不登校2,344人、経済的な理由も114人いる。

戦後、教育が一貫して目指してきた「人格の完成」と現行学習指導要領の基本理念である、「生きる力を育む」という目標は、学校という場だけでなく、また、教師という人材だけでなく、広く多くの関わりの中でこそ達成されるものである。そうした意味でも、修学旅行は最も重要な教育活動の一つであり、修学旅行のその行事（当日）だけでなく、そこに至るまでの道、つまりは、「学びの集大成を図る大切なプロセス」として、今後、50年、100年を展望していきたい。